

よりわかりやすく、
使いやすくなった
口腔機能低下症の
新バイブル!



B5判・136頁・オールカラー
本体6,300円+税

監修

一般社団法人日本老年歯科医学会

編著

水口俊介 (東京医科歯科大学大学院 歯学総合研究科 高齢者歯科学分野)

佐藤裕二 (昭和大学歯学部 高齢者歯科学講座)

櫻井 薫 (東京歯科大学 名誉教授)

口腔機能低下症入門

かかりつけ
歯科医のための



詳しい
情報は
こちら

保険収載されて4年が経過した「口腔機能低下症」。2022年4月の保険改定では、算定対象を65歳以上から50歳以上に拡大し、今後は適用する機会が増えると思われます。口腔機能低下症は、う蝕や歯周病のみならず、加齢や全身疾患、薬剤の副作用などによっても修飾され、複雑な病態を呈することが多く、診断する歯科医師には幅広い知識が求められます。本書では、超高齢社会における口腔機能低下症やオーラルフレイルの考え方から、診断の基本となる7つの検査項目、そして診断後の対応までを徹底的に解説しています。

1章 口腔機能低下症とは

「口腔機能低下症」への対応が求められる時代背景
健康長寿の鍵は“食力”
人生100年時代におけるオーラルフレイル予防 他

2章 口腔機能低下の診断基準となる7項目

口腔衛生状態不良
口腔乾燥
咬合力低下
舌口唇運動機能低下 他

3章 口腔機能低下症の管理と多職種連携

「口腔機能低下症」の患者管理と再評価の流れ
訪問歯科診療における取り扱い
低栄養の診断方法とその対応
口腔機能管理における歯科衛生士の役割 他

4章 保険診療での検査と口腔機能管理

保険算定時のポイント
効率的な検査・管理法